



山武市立山武望洋中学校

なごみだより

令和6年11月

みなさん、こんにちは。11月になり木々の葉も色づき始めましたね。みなさんの心と体のバランスはいかがでしょうか。なごみルームでは、みなさんが安心して生活が送れるように寄り添い、サポートしていきます。悩みや不安があるときはひとりで抱えずに、相談をしてくださいね。ちょっとおしゃべりがしたいなと思うときも是非利用してください。お待ちしております。

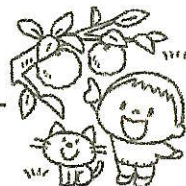
火・水・金曜日…心の教室相談員 岩澤

木曜日…スクールカウンセラー 江波戸

なごみルーム 11月の予定

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5 岩澤	6 岩澤	7 江波戸	8 岩澤	9	10
11	12 岩澤	13 岩澤	14 岩澤・江波戸	15	16	17
18	19 岩澤	20 岩澤	21 江波戸	22 岩澤	23	24
25	26 岩澤	27	28 岩澤・江波戸	29	30	
なごみルームの前にも今月の相談日の予定を掲示してあります						

相談したいときは…保健室の小関先生や担任の先生、教頭先生、その他の先生、誰にでもよいので「相談員、またはスクールカウンセラーと相談がしたい。」と希望を言って予約を入れてもらいましょう。私たちに直接「今日、相談がしたい。」と伝えるのも良いです。



保護者の皆様へ

相談室では保護者の皆様のお子様に関する心配なこと、不安なことに対するご相談も受け付けております。面談を御希望の方は、学級担任、養護教諭、教頭通じてお申し込みください。

山武望洋中学校（0479-86-4411）

山武望洋中の皆さん、こんにちは。11月に入って、やっと秋めいてきました。最近は、夏バテだけでなく、秋バテといわれる体調不良があるそうです。ちょっと疲れたなと感じたときは、早めに布団に入るなどして、体を休めましょう。

さて、皆さんはマンガを読みますか。今回は一冊の少年ジャンプを巡るお話です。

今から13年前、東日本大震災の揺れが仙台の町を襲いました。商店街は停電に見舞われ、商品も棚から落ちたり、商売どころではなくなりました。それから2日後、この街で本屋さんを営む塩川さんが、買い出しでスーパーの長い列に並んでいたら、何人かの若い母親に「子どもが余震や津波の映像を怖がっている、絵本やマンガを読ませたい」といわれました。塩川さんは、大急ぎで店を片付け、翌日に再開、すると吸い寄せられるように町の人たちが入ってきて、「大丈夫だった?」「大変だね」と心を寄せ合いました。

そのうち誰かが言い出しました。「少年ジャンプはどうなる?」店を開けた3月14日は月曜日で、少年ジャンプの発売日でした。でも、配送ルートが止まり、復旧のめども立っていません。連載されていた「ONE PIECE」の人気は絶大で、続きが読めなくなることを皆、心配しました。

一週間後に「山形で買ってきた」といって、少年ジャンプを一冊、塩川さんのお店においていったお客がいました。塩川さんは貼り紙を出しました。「少年ジャンプ読めます!一冊だけあります」伝え聞いた小中学生がやってきて、レジ前の棚に置かれたジャンプを回し読みしました。たちまち列ができます。「仲良く読めよ」塩川さんは声をかけました。

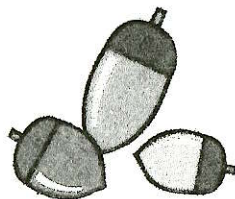
貼り紙を出した3日後、たまたま通りかかった新聞記者が貼り紙に目を留め、記事にしました。すると全国から、「皆さん、読んで」と何冊ものジャンプや何種類ものマンガや雑誌が送られてきました。塩川さんは全部立ち読み用に並べました。

ジャンプを発行する集英社からも電話がかかってきました。「出版社として何をすればいいのか、わからずにいました。一冊のジャンプが役立っていると知り、みんな泣いて喜びました」

塩川さんも元気がわきました。実は記事が出てから、「こんな時にマンガなんて不謹慎だ」と非難の声がいくつか届いていました。「ぼくがやったことは、正しかったんだ」

一冊の少年ジャンプを巡る物語、人の心の温かさにほっこりしました。そして、誰かを助けることは、誰かのためであると共に、助けた自分自身も勇気づけられるんだと、改めて感じました。

先日、山武望洋中でもボランティア部の皆さんを中心に、能登ヘタオルを送りました。一枚のタオルが一冊の少年ジャンプのように、能登の方々のお役に立っていることを願います。



心の教室相談員 岩澤 葉子